

# 「地球温暖化とSDGsの実践に向けて」 をテーマに発表していただきました

～2020年度 茨城県地球温暖化防止活動推進員第2回全体研修会、  
第3回エコ・カレッジ、環境事例発表会～

9月25日にホテルレイクビュー水戸で、推進員第2回全体研修会、第3回エコ・カレッジ、環境事例発表会を同時開催しました。今回のプログラムは、午前のPART1で、研究者の視線からみた地球環境と題し、講演をいただき、午後のPART2ではリサイクルとSDGsの実践事例と題し、講演とパネルディスカッションを行いました。地球温暖化防止活動推進員やエコ・カレッジ受講者のほか、当協会会員事業所、行政機関などから140名を超える参加者で、密を避けるために会場を倍にして開催しました。

また、Zoom配信により、地域地球温暖化防止活動推進センターや推進員、会員事業所84の皆様に視聴していただきました。

以下にその概要をお知らせします。

## PART1 研究者の視線からみた地球環境

### 「地層学から見た地球温暖化と気候変動」

・茨城大学 理学部理学科 教授 岡田 誠 氏

「チバニアン」研究から見えてきた新たな気候学」と題し、初めに、地質学とは地層に刻まれた声を聞き、時間軸を見ることができる唯一の学問とお話がありました。また、「GSSP」とは国際境界模式層断面とポイントであり、今回発見された「チバニアン」は、日本で初めての「GSSP」であり、「チバニアン」の区分である「前期—中期更新世境界」の特徴についての説明がありました。「更新世」の中の区分は、気候変動の違いで分けられていることや「酸素同位体層序」とは何か、「地磁気極性」の逆転はどう調べたらよいかなど、「チバニアン」の特徴についてより深い内容での解説がありました。



最後に、自然災害の多い日本にとって、「地質学」や「地学」は大切な学問なので、「チバニアン」をきっかけに多くの人に興味をもってもらえることを願っていると話されていました。

## 「地球温暖化による気候変動への対策」

- ・環境省関東地方環境事務所 地域適応推進専門官 川原 博満 氏

令和2年度版 環境白書の内容についての説明がありました。現在、国内外で気象災害が多発しており、今後さらにリスクが高まることや海洋プラスチックの量が2050年には魚の総量を超えるなど様々な予測をしており、「気候変動」から「気候危機」になっていると話されていました。また、気候変動に関する政府の取組や脱炭素社会づくりに向けた政府以外の取組についての紹介がありました。



その中で、我が国の脱炭素化を取り込む企業数は世界トップレベルであることや2050年には温室効果ガス又は二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることを目指す旨を表明する地方自治体が増加している。

最後に、「地域循環共生圏」は、環境と経済・社会問題の統合的な向上などを実現するための新しい概念であり、日本発の脱炭素化・SDGsの実現に向けた考え方であると話されていました。

## PART 2 わが国がかかえる諸問題とSDGsの取組

### ●基調講演

- ・株式会社 NTTファシリティーズ 渉外／イノベーション推進室 担当部長  
東京大学客員教授 田中 良 氏

「地球環境と生物との共存を図った無駄のないスマートシティ」と題し、初めに、地球温暖化と気候変動の影響について実例をもとにした説明がありました。次に、COVID-19の影響について様々なデータをもとにした説明があり、COVID-19の影響による経済社会の変化についても話されていました。続いて、国内のエネルギー動向について想定される動きや日本のエネルギー構想について説明され、再生可能エネルギーの主電力化には多くの課題があると話されていました。



最後に、スマートシティの構築について企業の導入事例をもとに詳しい説明がありました。

## ●事例講演「SDGs達成に向けた取組事例について」

- ・北越コーポレーション株式会社 環境統括部長 中俣 恵一 氏

「地球温暖化とSDGsの実践に向けて」と題し、「紙／バイオマス」の分野でのお話をされました。初めに、「紙」の歴史や性質についての説明があり、「紙」は他の物と比べ、リサイクルは簡単にできると話されていました。次に、「紙」のリサイクルの流れや古紙の種類と紙製品の例についての紹介がありました。続いて、北越コーポレーション関東工場についての紹介があり、最後に、北越コーポレーションの環境理念である「ミニマムインパクト」についての説明がありました。「ミニマムインパクト」

とは、自然環境に与えるあらゆるネガティブなインパクトを、最新の技術を用いて最小限にしていこうという考え方だと話されていました。



- ・協栄産業株式会社 代表取締役 古澤 栄一 氏

「PETボトルリサイクルの進化 『ボトルt o ボトル』から『フレック t o プリフォーム』へ国内資源循環の拡大」と題し、「PETボトル」の分野でのお話をされました。PETボトルは、劣化が激しいためリサイクルが不可能だと思われていたが、「分ければ資源、混ぜればゴミ」という理念をもとに、日本で初めて「ボトルt o ボトル」を成功させるまでの経緯を説明されました。その中で、「見える化」は、信用・信頼・安心を得るために大切だと話されていました。



- ・JX金属苫小牧ケミカル株式会社 製造部長 宮本 和明 氏

「SDGs達成に向けた取り組みについて」と題し、「金属・ケミカル」の分野でのお話をされました。初めに、会社概要・沿革について説明があり、続いて、産業廃棄物や低濃度PCBの処理事業について図や写真を用いて詳しい説明がありました。そして、JX金属グループのSDGsへの取り組みについてそれぞれの項目から実例を用いて紹介があり、最後に、産業廃棄物の道外搬入について話されていました。



・パネルディスカッション

コーディネーター 山梨大学 燃料電池ナノ材料研究センター 教授 吉積 潔 氏  
パネラー 田中良氏、中俣恵一氏、古澤栄一氏、宮本和明氏



講演及び事例発表後、吉積潔氏をコーディネーターに、講演者と事例発表者をパネリストとしてパネルディスカッションを行いました。ここでは、それぞれの分野の視点から参加者の質問を交えて、SDGsと企業の経営戦略について話し合っていました。その中でCO<sub>2</sub>の削減は地球の問題であり、ゴミもひと手間かければ有価物になる可能性があるため、今後どこまで分ければよいかの情報が一般的に広まれば問題の解決に近づくのではないかと話されていました。また、モノを作るときにCO<sub>2</sub>を出す、リサイクルはモノを再生するのにCO<sub>2</sub>を減少できるとも話されていました。

各講師の皆様のご素晴らしいご講演と先端技術のご紹介、まことにありがとうございました。

